

【今日の説教から】

使徒1章には弟子たちのこの悲痛な叫びがありました。

「主よ、イスラエルのために国を復興なさるのは、この時なのですか」

神の民イスラエルはローマの属州となり、エルサレムにはローマからの総督がいました。

国の独立を、復興を願う声があり、救い主(メシア)を待望する声がありました。

今日のペテロの説教には旧約聖書ヨエル書からの引用がありますが、ここにも敵国から攻められる神の民の悲惨が預言されています。

「酔える者よ、目をさまして泣け。…一つの国民がわたしの国に攻めのぼってきた。その勢いは強く、その数は計られず、その歯はしの歯のようで、雌じしのきばをもっている。」しかしヨエルは主にある守りをも預言します。

「地よ恐るな、喜び楽しめ、主は大いなる事を行われたからである。野のもろもろの獣よ、恐るな。…シオンの子らよ、あなたがたの神、主によって喜び楽しめ。…あなたがたはイスラエルのうちにわたしのいることを知り、主なるわたしがあなたがたの神であって、ほかにないことを知る。わが民は永遠にはずかしめられることがない。その後わたしはわが靈をすべての肉なる者に注ぐ。…すべて主の名を呼ぶ者は救われる。」

ペテロは、今神の民が置かれている状況を聖書からの的確に引用し、そのために「主の名を呼ぶ」必要を説き呼ぶべき御名は、他ならぬイエス様の名であることを伝えたのです。

皆様おはようございます。

先週はペンテコステの礼拝でした。

使徒1:4 そして食事を共にしているとき、彼らにお命じになった、「エルサレムから離れないで、かねてわたしから聞いていた父の約束を待っているがよい。

1:5 すなわち、ヨハネは水でバプテスマを受けたが、あなたがたは間もなく聖靈によって、バプテスマを受けられるであろう」。

1:8 ただ、聖靈があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。

このイエス様の予告の通りに、地の果てまでイエス様の証人となるために、弟子たちは他国の言葉で神の大きな働きを証ししたのです。

使徒2:11 ユダヤ人と改宗者、クレテ人とアラビヤ人もいるのだが、の人々がわたしたちの国語で、神の大きな働きを述べるのを聞くとは、どうしたことか」。

これは人々があっけに取られ、驚き怪しみ、「一体どうしたことか」と首を傾げ、どうした

ことかと驚き惑う事態でした。彼らは苦し紛れにこう言うより他はありませんでした。

2:13 しかし、ほかの人たちはあざ笑って、「の人たちは新しい酒で酔っているのだ」と言った。

新しいぶどう酒であれ、古いぶどう酒であれ、現在 21 世紀のあらゆる科学技術をもってしても、習いもしない言語で流ちょうに話すという事をたちどころに成し遂げる技術は誰も持ち合わせてはいません。つまり人には理解も実現も不能なのです。

2:2 突然、激しい風が吹いてきたような音が天から起ってきて、一同がすわっていた家いっぽいに響きわたった。

2:3 また、舌のようなものが、炎のように分れて現れ、ひとりひとりの上にとどまった。

2:4 すると、一同は聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、いろいろの他国の言葉で語り出した。

神様の力により、言語である舌である神様の霊の宿るとき、人は聖霊が語られるがままに、力ある舌を得て、縦横無尽に、いかなる言語を操ってさえ、神様の素晴らしい御業をほめたたえ、賛美しながら証しをすることが出来るのです。これはまた、マタイの最後のところに記されている、イエス様のご命令を私たちが守ることのできる支えでもあります。

マタイ 28:18 イエスは彼らに近づいてきて言われた、「わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた。

28:19 それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、

28:20 あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」。

さて、人々があざけり、の人たちは新しい酒で酔っているのだ」と言った、そのことから端を発して、ペテロの説教が始まります。

酔っていないと言ってから「ヨエル書」を引用するというのは、私たち日本語を使う者にとっては語呂合わせの冗談のように聞こえますが、それは日本語ゆえのことなので気にしないとして、ヨエル書にはこのような記述があります。

1:1 ペトエルの子ヨエルに臨んだ主の言葉。

1:2 老人たちよ、これを聞け。すべてこの地に住む者よ、耳を傾けよ。あなたがたの世、

またはあなたがたの先祖の世にこのような事があったか。

1:3 これをあなたがたの子たちに語り、子たちはまたその子たちに語り、その子たちはまたこれを後の代に語り伝えよ。

1:4 かみ食らういなごの残したものは、群がるいなごがこれを食い、群がるいなごの残したものは、とびいなごがこれを食い、とびいなごの残したものは、滅ぼすいなごがこれを食った。

1:5 酔える者よ、目をさまして泣け。すべて酒を飲む者よ、うまい酒のゆえに泣き叫べ。うまい酒はあなたがたの口から断たれるからだ。

1:6 一つの国民がわたしの国に攻めのぼってきた。その勢いは強く、その数は計られず、その歯はししの歯のようで、雌じしのきばをもっている。

1:13 祭司たちよ、荒布を腰にまとい、泣き悲しめ。祭壇に仕える者たちよ、泣け。神に仕える者たちよ、来て、荒布をまとい、夜を過ごせ。素祭も灌祭も／あなたがたの神の家から退けられたからである。

1:14 あなたがたは断食を聖別し、聖会を召集し、長老たちを集め、国の民をことごとくあなたがたの神、主の家に集め、主に向かって叫べ。

1:15 ああ、その日はわざわいだ。主の日は近く、全能者からの滅びのように来るからである。

1:16 われわれの目の前に食物は絶え、われわれの神の家から／喜びと楽しみが絶えたではないか。

これは強大な敵の手に落ちようとしている神の民の悲惨を告げるものであり、神の前の悔い改めを促すものです。酒によって浮かれているな、大きな悲惨が待っている。悔い改めよ。神様の救いを待ち望め。そういうメッセージです。

ヨエル書

2:1 あなたがたはシオンで／ラッパを吹け。わが聖なる山で警報を吹きならせ。国の民はみな、ふるいわななけ。主の日が来るからである。それは近い。

2:2 これは暗く、薄暗い日、雲の群がるまくらな日である。多くの強い民が／暗やみのようにもろもろの山をおおう。このようなことは昔からあったことがなく、後の代々の年にも再び起ることがないであろう。

2:3 火は彼らの前を焼き、炎は彼らの後に燃える。彼らのこない前には、地はエデンの園のようであるが、その去った後は荒れ果てた野のようになる。これをのがれうるものは一つもない。

2:4 そのかたちは馬のかたちのようであり、その走ることは軍馬のようである。

2:5 山の頂でとびおどる音は、戦車のとどろくようである。また刈り株を焼く火の炎の音のようであり、戦いの備えをした強い軍隊のようである。

2:6 その前にもろもろの民はなやみ、すべての顔は色を失う。

2:7 彼らは勇士のように走り、兵士のように城壁によじ登る。彼らはおのれの自分の道を進んで行って、その道を踏みはずさない。

2:8 彼らは互におしあわず、おのれのその道を進み行く。彼らは武器の中にとびこんでも、身をそこなわない。

2:9 彼らは町にとび入り、城壁の上を走り、家々によじ登り、盗びとのように窓からはいる。

2:10 地は彼らの前におののき、天はふるい、日も月も暗くなり、星はその光を失う。

2:11 主はその軍勢の前で声をあげられる。その軍隊は非常に多いからである。そのみ言葉をなし遂げる者は強い。主の日は大いにして、はなはだ恐ろしいゆえ、だれがこれに耐えることができよう。

2:12 主は言われる、「今からでも、あなたがたは心をつくし、断食と嘆きと、悲しみとをもってわたしに帰れ。

2:13 あなたがたは衣服ではなく、心を裂け」。あなたがたの神、主に帰れ。主は恵みあり、あわれみあり、怒ることがおそく、いくつしみが豊かで、災を思いかえされるからである。

2:14 神があるいは立ち返り、思いかえして祝福をその後に残し、素祭と灌祭とを／あなたがたの神、主にささげさせられる事はないと／だれが知るだろうか。

2:15 シオンでラッパを吹きならせ。断食を聖別し、聖会を召集し、

2:16 民を集め、会衆を聖別し、老人たちを集め、幼な子、乳のみ子を集め、花婿をその家から呼びだし、花嫁をそのへやから呼びだせ。

2:17 主に仕える祭司たちは、廊と祭壇との間で泣いて言え、「主よ、あなたの民をゆるし、あなたの嗣業をもろもろの国民のうちに、そしりと笑い草にさせないでください。どうしてもろもろの国民に、『彼らの神はどこにいるのか』と／言わせてよいでしょうか」。

このヨエル書のメッセージは、まさに今ローマの属州であり、この後40年後、紀元70年にローマがエルサレムに攻め入り、神殿を破壊するというその時代の文脈に即したものでした。しかし人々は油断をしていました。ただ救い主メシアを漫然と待つのではなくて、悔い改めをもって主の前に立ち返るべきことをどれだけの人が理解していたでしょうか。

ヨエル 2:18 その時主は自分の地のために、ねたみを起し、その民をあわれまれた。

2:19 主は答えて、その民に言われた、「見よ、わたしは穀物と新しい酒と油とを／あなたがたに送る。あなたがたはこれを食べて飽きるであろう。わたしは重ねてあなたがたに／もろもろの国民のうちでそしりを受けさせない。

2:20 わたしは北から来る者をあなたがたから遠ざけ、これをかわいた荒れ地に追いやり、その前の者を東の海に、その後の者を西の海に追いやる。その臭いにおいは起り、その悪しきにおいは上る。これは大いなる事をしたからである。

2:21 地よ恐るな、喜び楽しめ、主は大いなる事を行わされたからである。

2:22 野のもうもろの獸よ、恐るな。荒野の牧草はもえいで、木はその実を結び、いちじくの木とぶどうの木とは豊かに実る。

2:23 シオンの子らよ、あなたがたの神、主によって喜び楽しめ。主はあなたがたを義とするために秋の雨を賜い、またあなたがたのために豊かに雨を降らせ、前のように、秋の雨と春の雨とを降らせられる。

2:24 打ち場は穀物で満ち、石がめは新しい酒と油とであふれる。

2:25 わたしがあなたがたに送った大軍、すなわち群がるいなご、とびいなご、滅ぼすいなご、かみ食らういなごの食った年を／わたしはあなたがたに償う。

2:26 あなたがたは、じゅうぶん食べて飽き、あなたがたに不思議なわざをなされた／あなたがたの神、主のみ名をほめたたえる。わが民は永遠にはずかしめられることがない。

2:27 あなたがたはイスラエルのうちに／わたしのいることを知り、主なるわたしがあなたがたの神であって、ほかにないことを知る。わが民は永遠にはずかしめられることがない。

2:28 その後わたしはわが靈を／すべての肉なる者に注ぐ。あなたがたのむすこ、娘は預言をし、あなたがたの老人たちは夢を見、あなたがたの若者たちは幻を見る。

2:29 その日わたしはまた／わが靈をしもべ、はしたために注ぐ。

2:30 わたしはまた、天と地とにするしを示す。すなわち血と、火と、煙の柱とがあるであろう。

2:31 主の大いなる恐るべき日が来る前に、日は暗く、月は血に変る。

2:32 すべて主の名を呼ぶ者は救われる。それは主が言われたように、シオンの山とエルサレムとに、のがれる者があるからである。その残った者のうちに、主のお召しになる者がある。

ペテロはこの御言葉を引用したのです。

地よ恐るな、喜び楽しめ、主は大いなる事を行わされた、シオンの子らよ、あなたがたの神、主によって喜び楽しめ。主はあなたがたを義とするために秋の雨を賜い、またあなたがたのために豊かに雨を降らせ、前のように、秋の雨と春の雨とを降らせられる、あなたがたは、じゅうぶん食べて飽き、あなたがたに不思議なわざをなされた／あなたがたの神、主のみ名をほめたたえる。わが民は永遠にはずかしめられることがない。あなたがたはイスラエルのうちに／わたしのいることを知り、主なるわたしがあなたがたの神であって、ほかにないことを知る。わが民は永遠にはずかしめられることがない、この救いは、イエスキリストの十字架の贖いによる救いによって成就したのです。

2:28 その後わたしはわが靈を／すべての肉なる者に注ぐ。あなたがたのむすこ、娘は預言をし、あなたがたの老人たちは夢を見、あなたがたの若者たちは幻を見る。

2:29 その日わたしはまた／わが靈をしもべ、はしたために注ぐ。

2:30 わたしはまた、天と地とにするしを示す。すなわち血と、火と、煙の柱とがあるであろう。

2:31 主の大いなる恐るべき日が来る前に、日は暗く、月は血に変る。

2:32 すべて主の名を呼ぶ者は救われる。

終わりの時を前にして、このペンテコステの日、ヨエル書の預言は成就しました。「わが靈をすべての肉なる者に注ぐ」そして預言するという御言葉は成就しました。他ならぬ神様の力によって弟子たちは習いもしない言葉で預言したのであり、その出来事はすでに聖書に預言されていたのです。

ここからさらにペテロの説教は続いていきます。

私たちの身にどのような恐ろしい前途が待ち構えていようと、私たちには、私たち罪びとのために先んじて贖いと赦しとを用意しておられるお方がいらっしゃるとしたら、どうして私たちは心をかたくなにして、自らは正しい、悔い改める必要はないと言い張る必要があるでしょうか。

ローマ 5:1 このように、わたしたちは、信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている。

5:2 わたしたちは、さらに彼により、いま立っているこの恵みに信仰によって導き入れられ、そして、神の栄光にあずかる希望をもって喜んでいる。

5:3 それだけではなく、患難をも喜んでいる。なぜなら、患難は忍耐を生み出し、

5:4 忍耐は鍊達を生み出し、鍊達は希望を生み出すことを、知っているからである。

5:5 そして、希望は失望に終ることはない。なぜなら、わたしたちに賜わっている聖靈によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからである。

5:6 わたしたちがまだ弱かったころ、キリストは、時いたって、不信心な者たちのために死んで下さったのである。

5:7 正しい人のために死ぬ者は、ほとんどいないであろう。善人のためには、進んで死ぬ者もあるいはいるであろう。

5:8 しかし、まだ罪人であった時、わたしたちのためにキリストが死んで下さったことによって、神はわたしたちに対する愛を示されたのである。

「すべて主の名を呼ぶ者は救われる。」そして、この名とは、私たちが救われるべき唯一の御名である、贖い主、イエス・キリストの御名なのです。

使徒 4:11 このイエスこそは『あなたがた家造りらに捨てられたが、隅のかしら石となった石』なのである。

4:12 この人による以外に救はない。わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである」。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。喜びも楽しみも奪い取られ、強き者に踏みにじられ、顔は色を失い、希望は奪われ、絶望を経験するとき、『大地よ、恐れるな、喜び躍れ。主は偉大な御業を成し遂げられた。…イスラエルのうちにわたしがいることをお前たちは知るようになる。わたしはお前たちの神なる主、ほかに神はいない。…主の御名を呼ぶ者は皆、救われる。』との神様のお言葉に感謝いたします。そして私たちが悲惨と困難との中で呼び求めるべきイエス様の御名を与えてくださいまして、ありがとうございます。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン